

リーディングDXスクール事業【実践事例一覧】

仙台市教育委員会（仙台市）

学校名	教育利用・校務利用	実践事例の概要	様式
仙台市 教育委員会	校務利用	①「教職員向けオンデマンド研修」 全市立学校・園の教職員を対象に生成AIに関する研修会をオンデマンド形式で行うために研修動画を作成し、全教職員が受講した。	B-1
西多賀中学校 【指定校】 金剛沢小学校 【協力校】	校務利用	②生成AIパイロット校校内研修「生成AIの教育利用の可能性を考える」	B-2
西多賀中学校 【指定校】 金剛沢小学校 【協力校】	教育利用	③実践授業（西多賀中学校、金剛沢小学校）	B-3
西多賀中学校 【指定校】 金剛沢小学校 【協力校】 仙台市 教育委員会	校務利用	④生成AI授業プランの作成	B-4

<校務利用> ① 教職員向けオンデマンド研修

全市立学校・園の教職員を対象に生成AIに関する研修会をオンデマンド形式で行うために研修動画を作成し、全教職員が受講した。

<生成AI研修会①>



期日：令和5年10月12日～12月12日
 講師：宮城教育大学 准教授 板垣 翔大 氏
 内容：「生成AIとは」
 研修後のアンケートから
 ・まだ学校現場では活用されていないが、生成AIは、身近なものとなってきている。どのような可能性があり、どのようなマイナス面があるのかを教師がよく理解して活用する必要があることが理解できた。

<生成AI研修会②>



期日：令和5年12月5日～令和6年2月5日
 講師：宮城教育大学教職大学院 特任教授 菅原 弘一 氏
 内容：「生成AIの教育利用」
 研修後のアンケートから
 ・前回研修1よりさらに一歩進み、校務での活用例、授業での活用例、その可能性と留意点について具体的に知ることができた。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

西多賀中学校（指定校）・金剛沢小学校（協力校）

<校務利用> ② 生成AIパイロット校校内研修「生成AIの教育利用の可能性を考える」

【概要】生成AIパイロット校の教職員に対し、生成AIの仕組みや特性の理解、また、校務での活用イメージを持つことができるよう、学校DX戦略アドバイザーによる体験的な研修を実施した。

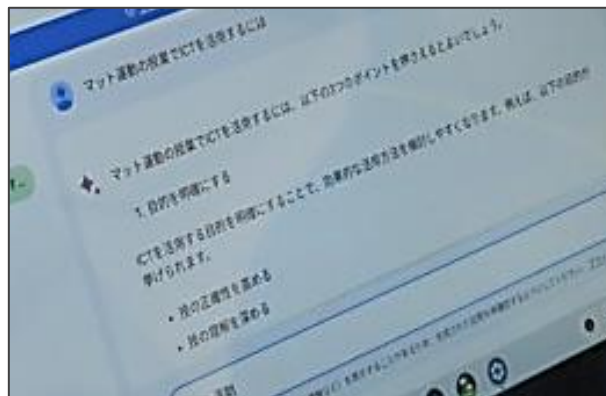
【研修のねらい】

- ・生成AIの校務や授業における利用の可能性や課題について理解する。
- ・生成AIのような高度な学習機能を持つ人工知能が次々と現れ膨大な情報が溢れるデジタル社会にいかに向き合うかを児童生徒に考えさせる指導について理解を深める。
- ・リーディングDXスクール生成AIパイロット校としての役割を理解する。

【研修の具体】



【講話】学校DX戦略アドバイザー 菅原弘一氏（宮城教育大学教職大学院特任教授）を講師に、仙台版生成AI利活用ガイドラインを基に、教育利用に当たって確認しておくべきことを共通理解する。



【ワーク1】GoogleBard（現Gemini）を実際に操作しながら、各自プロンプトを入力し、得られた回答を基に、気づきや、校務・授業で活用する場合の留意点について意見交流する。

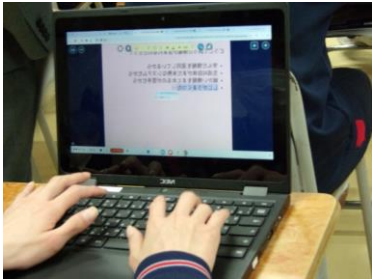


【ワーク2】校務や授業での困り感を解決する手助けとなりそうな、生成AIの利用アイデアを、グループごとGoogleスライドに意見を整理しながら考える。他のグループの閲覧や発表から利活用イメージを広げる。

〈学習利用〉 ③ 実践授業（西多賀中学校・金剛沢小学校）



学習課題を「AI時代に生きていく自分たちが大切にしたいことは何だろう」として2時間の授業を展開。「Google bard」の演示も取り入れながら、生成AIの活用場面を考える活動や生成AIがどのような職業に役立つか考える活動を取り入れた。



〈生徒の振り返り〉

- ・すべてAIに任せるのではなく、場面に応じて人間がAIを使い分ける必要があると思った。
- ・AIは感情はないので、人とのコミュニケーションは大事にしていこうと思った。授業を通して自分の将来について考えることができた。



学習課題を「新しい技術とどう付き合っていくのかを考えよう」として2時間の授業を展開。

「Google bard」を使った演示を見て、気が付いたことをPMIシートに記入する活動やAI先生ができることとできないことについて考える活動を取り入れた。



〈児童の振り返り〉

- ・これからもっと技術が進歩していく中で、私たちはAIの考え方も取り入れ、うまく活用し、気をつけて使っていけば良い。
- ・「AIを取り入れるかどうか」ではなく、「AIとどのように生きるか」を考えていきたい。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

西多賀中学校（指定校）・金剛沢小学校（協力校）
・仙台市教育委員会

＜学習利用＞ ④ 生成AI授業プランの作成

生成 AI 学習指導案

1 題材名 高度情報社会の一員として大切なことについて考えよう

「生成 AI」は「AI」の一種です。「生成 AI」は、ある命令に対して自動的に新しいデータや情報を出力する「AI」です。「AI」がインターネット上にあるデータを自動で学習し、人間の入力したキーワードに沿って判断し、オリジナルのものを創り出していくものが「生成 AI」です。
このような生成 AI などの高度な情報技術が急速に普及していく社会を高度情報社会ととらえ、学習を進めます。

2 題材のねらい

- 生成 AI の
- 気付く。
- 高度情報
- く生活して

生成 AI の回答について考えよう

I こんなことを聞いてみました

日本語を英語に直すことはできますか？

生成 AI ができること
生成 AI が得意なこと

生成 AI ができないこと
生成 AI が苦手なこと

2時間扱いの学習指導案を作成し、全市に展開した。1時間目のねらいは「生成AIの仕組みを知り、生成AIの良さや課題に気付く。」、2時間目のねらいは「高度な情報技術を活用し、より良く生活していこうとする意識を高める。」とした。

〈指導案のポイント1〉

授業を行う際、大切にしたい点を、吹き出しとして記入した。

〈授業者からの感想〉

授業者としてのポイントが分かりやすく説明されていて、取り組みやすかった。

〈指導案のポイント2〉

生成AIの使用例や生徒の思考場面に使える思考ツールなどを共有できるようにした。

〈授業者からの感想〉

授業の準備がスムーズにできた。ICTが苦手でも取り組みやすいと感じた。

〈指導案のポイント3〉

授業者が児童生徒の実態に合わせてアレンジできるよう吹き出しに発問例を入れた。

〈授業者からの感想〉

事前アンケート結果を見て、ねらいや活動を工夫し、授業を展開することができた。